

善福寺公園かめ新聞

第1号 2004年7月16日



☆ 池の中の網は何だろう??

最近、池に漁網が仕掛けてあるのを見たことはありませんか?

「いったい何をしているのだろう?」と不思議に思った方も多いのではないのでしょうか。この漁網、実はカメを採っているのです。これは善福寺公園に生息しているカメ類の生息状況を知るための調査で、6月~10月まで行う予定です。

☆ 何がわかるの??

調査では、カメの種類、生息数、性別、おおまかな年齢などを調べています。その結果、善福寺公園にはどんなカメがどのくらい生息しているのか? 繁殖しているのか? といったことを知ることができます。この地域にもともといたカメばかりではなく、最近問題になっている「外来種(注)」も見つかるでしょう。

調査によって、外来種が定着しているか(繁殖して世代交代しているか)も知ることができます。この調査は武蔵野地域のいくつかの池を対象としています。池ごとにカメ類の生息状況を詳しく調べ、在来種の生息状況や外来種の侵入・定着状況を知り、地域在来の生物相を保全しようと考えています。これまでに、井の頭池(三鷹市)、光が丘公園バードサンクチュアリ池(練馬区)で調査を行っています。

(注)「外来種」……もともとはその地域に自然分布せず、人為的に持ち込まれた生物のこと。在来種との間に、捕食、交雑などの問題を引き起こしています。先頃開かれていた国会では、外来種対策のための新法が制定されました。

☆ 採ったカメはどうするの??

在来種は、計測してからその場で逃がします。外来種は、地域在来の自然を大切にいくために、取り除いています。これらのカメは、研究試料として東京農工大学の研究室に提供しています。

☆ 調査しているのはどんな人??

都立公園を管理している(財)東京都公園協会、善福寺公園管理所、そして生態工房というNPOが協力して調査しています。調査期間中は、腕章をつけた2~3人のスタッフが、胴長靴をはいて作業しています。

☆ どんな生きものがいたのかな??

6月の調査結果

<カメ>

6種のカメ類を確認しました。外来種が多いですが、イシガメやスッポンも生き残っています。今後、種ごとの個体数を明らかにしていきます。

ミシシッピーアカミミガメ(外来種) 45 匹

クサガメ 15 匹

ニホンイシガメ 1 匹

ハナガメ(外来種) 2 匹

カミツキガメ(外来種) 1 匹

ニホンスッポン 1 匹(産卵を確認)

その他

<両生類> <甲殻類>

ウシガエル(外来種) テナガエビ

スジエビ

<魚類> アメリカザリガニ(外来種)

モツゴ

ウキゴリ

コイ(外来種)

タイリクバラタナゴ(外来種)

ブルーギル(外来種)

今月のカメ

ミシシッピーアカミミガメ

Trachemys scripta elegans (ヌマガメ科)



分布: 本来はアメリカ合衆国南部、メキシコ北部に生息していますが……ペットとして輸入されたものが捨てられて、今では日本全国に広まっています。

大きさ: 子ガメのころは3cmほどですが、30cmくらいにまで成長します。

食べ物: 小さい頃は動物質の餌を好みますが、大きくなると草食傾向の強い雑食になります。

特徴: 名前の由来でもある「赤い斑紋」が頭の両側にあります。

「ミドリガメ」の名前でお馴染みのカメです。

かわいらしい姿にひかれて飼いはじめられる人が多いのですが、2年もすれば甲羅は大きくなって色も黒っぽくなり、いやになってしまつて川や池に捨てられることがあります。

在来のニホンイシガメなどに比べると産卵数が多く、汚れた水にも強いので、個体数が増えています。しかし、日光浴のために水鳥のカイツブリの巣の上で巣をダメにしてしまつたり、上手に泳いで水中からカルガモのひなを食べたりして、もともといた生きものの暮らしをおびやかす存在になっています。このカメは50年くらい生きると言われています。飼うと決めたら責任を持って世話をしてもらいたいものです。



※カメなどのペットを野外に放すことは、動物愛護管理法第27条で禁止されています(30万円以下の罰金!!)